

第14回 福山市みどりの審議会 議事要旨

1 日時

2025年（令和7年）10月31日（金）10：00～11：40

2 場所

エフピコアリーナふくやま1階多目的室

3 出席委員

鶴崎委員、横山委員、大畑委員、高野委員、村上委員、高森委員、石口委員、石井委員、坂本委員、門井委員、連石委員、市川委員

※欠席（久富委員、後藤委員）

4 会議次第

（1）開会

（2）審議事項

1号議案 福山市緑の基本計画の改定について

（3）その他

（4）閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

（1）一般傍聴者 1名

（2）傍聴者（報道関係） 0名

委員からの主な意見

【1号議案_福山市緑の基本計画の改定について】

（現行計画の達成状況について）

委員

「みどりの確保目標」について、現状の緑被率には、耕作放棄地の雑草など通常管理されていないようなみどりも含まれているものと受け止めてよいか。耕作放棄地のみどりは、今後、宅地開発などにより減少する可能性もあるということを念頭に置いておかなくてはならない。

事務局

ご指摘のとおりである。緑被率の対象としているみどりは、管理されているか否かに関わらず、民有地のみどりも含めて抽出しているものである。

委員

「ばらのまちづくり」の説明の中で、ばら苗を配布した効果が定量的に把握できていないとのことであったが、（鉢植えのばらのように）衛星画像の解析では捉え切れない小さなみどりについても、アンケートや緑視率など、別の指標で評価するなどして、計画に反映させることができないか。

事務局

定量的な評価が難しい取組みについては、今回、市民アンケートを行う中で、別の指標により評価していきたいと考えている。

委員

今年、世界バラ会議が開催される中で、地域住民が管理しているばら花壇の品質を競うばら花壇コンクールには94もの地域花壇がエントリーし、内容も充実していた。ばら苗配布など、皆さんの努力により一定の成果が現れたのではないか。各家庭でもばらを育てておられる方が増えてきているものと思われる。

一方、県や市の支援をいただきながら、里山の維持管理に取り組んでいるが、自然の力にはなかなか勝てない。引き続き、支援をお願いしたい。

会長

いただいたご意見は、今後の計画案に反映していただきたい。

委員

緑被率に管理されていないみどりも含まれているが、これらはみどりのまちづくりに貢献していないのであれば、評価の対象から外した方がよいのではないか。

事務局

管理されていないみどりも、生物多様性の確保といった機能などを有しているものも含まれるため、総合的な指標として緑被率に含めて評価している。新たな計画でもこのような指標を引き続き用いるべきか、ご意見があればいただきたい。

委員

街路樹の植栽路線（区間）数が増加しているとの説明であるが、新たに植栽した路線（区間）のみを計上しているものか、減少分も含めて計上しているものか。

事務局

新たに植栽した路線（区間）のみを計上した数字であり、これとは別に、歩道幅員を確保するために既存の街路樹を伐採している路線（区間）もある。

委員

街路樹の整備路線数は増えているが、実際の本数は 8,300 本から 6,700 本へ 1,600 本も純減している。夏場の涼を供給してくれる木陰は高木でないとできない。伐採後、新たな高木に植替えしない路線が増えたり、低木化ばかりが進められると、街路樹としての機能があまり期待できなくなるのではないか。

事務局

街路樹再整備計画策定に向けた懇談会の中で、道路の通行の安全を確保するという大切な役割とみどりの機能の両面を踏まえながら、方向性について検討している。緑陰に代わる機能についても検討されている。

会長

その他意見等はないか。（意見なし）

（新たな計画の方向性（案）について）

委員

多様な主体との連携とあるが、実際にどのようにして巻き込んでいくのかを並行して検討しておいた方がよい。例えば、民間施設の緑化協議が形骸化しているなら、どういふふうに運用をバージョンアップさせるとよいのかを考えておく。緑化基準を達成した事業所にはブランド化したばらを配布し、門のところに植えてもらおうとか、ペナルティではなく、インセンティブを与えることも有効と考えられる。具体的な施策まで計画に明示する必要はないと思うが、取組方針に基づく施策は並行して考えておいた方がよい。

また、13 ページに例示されたその他の指標について、みどりの量や質に対する評価でそれらを満足度指標として用いてよいのか疑問である。量が多いけど歩道の幅が狭くなって危ないとか、美しいけど近づくとき危ないといったこともあると思う。満足度は、みどりの量や質とは別に、単刀直入に今のみどりの状況に満足しているかという聞き方をした方が、回答者の意図とギャップが生まれにくいと思う。

事務局

多様な主体をどのように書き込んでいくのか、委員のアドバイスを踏まえて検討していきたい。また、市民満足度に関する評価項目についても、いただいたご意見を参考に適切な評価項目をあらためて検討したい。

会長

(評価指標に関係する) アンケートについても回答をどういう指標として扱うのか、あらためて検討していただきたい。

委員

周辺部と旧市街地（中心部）では、住民の思いや考え方が乖離している。周辺部では「みどりを維持しよう」ではなく「どうみどりと戦うか」が課題である。中心部と周辺部のあり方は切り分けて整理した方がよいのではないかと。鞆の浦や阿伏兎観音など、周辺部の観光資源的なもの、あるいは原風景的なものについて、それらを維持するために地域住民はみどりと対決している。ものすごいマンパワーが必要とされている。そういったことをよく考えて、周辺部のみどりに対する言葉を紡いでいただきたい。

芦田川流域を評価対象に含める考えはよいと思う。多くの市民が散歩したりランニングしたりして利用している。

事務局

ご指摘の点について、視点を広げて計画に反映していきたい。

委員

周辺部の話は非常に重要な視点だと思う。保全と創出、そしてマネジメントという3つの観点が必要で、地域の実情に応じたマネジメントというものを包含するような方針が望ましいと思う。みどりを確保するだけでなく、活用するためには維持管理も必要という視点が重要だと感じた。

方針5の「みどりによる安全・安心なまちづくり」の中で、グリーンインフラの導入についても触れているが、芦田川については、国の流域治水プロジェクトの中でもグリーンインフラに言及しているので参考にしていきたい。例えば、自然環境の再生など、河川とみどりのあり方については治水と連携するなど、安全・安心が守れない中で、みどりだけ守ろうと言っても理解が得られないので、そういったことも踏まえて考えていければよいと思う。

会長

みどりの活用だけでなく、市民に協力してもらえるような防災などに関することも、今後検討してもらいたい。

委員

11ページで芦田川緑地の面積は574ヘクタールとなっているが、3ページの都市公園面積には含まれていないとの説明であった。その理由をもう一度説明して欲しい。

事務局

現行計画で設定した指標は、法律や政令に準じて「一人当たり都市公園面積」を採用したものであるが、芦田川緑地の殆どの部分は「都市公園」として開設していないことから、「一人当たり都市公園面積」という定義で評価すれば漏れてしまうためである。ご意見の趣旨を踏まえ、次期計画では実感としてみどりの機能が感じられる部分も反映できるよう考えていきたい。

委員

574ヘクタールは河川敷のグラウンドのような箇所を含める面積か。

事務局

堤防から河川敷、水面も含めた河川区域全体である。

会長

水面をみどりの定義に含めることについても新たな計画の中で整理してもらいたい。

委員

新たな計画の基本的な方向性に記載されている「量から質へ」という考えには賛成。量にこだわっても質が悪いと意味がない。質の向上を図るにはどうしたらよいのか考えないといけない。木は成長し変化しているのに維持管理方法はほとんど変わってない。全国で倒木事故が増えているが、質を高めるために維持管理のあり方、更新のあり方も一緒に考えないといけない。

会長

どのようにして質を向上していくのか、事務局で考えをまとめていただきたい。

委員

緑被面積の目標設定について、芦田川緑地に限らず、高屋川や神谷川、山南川など、洪水敷がある箇所については、法的な位置づけはともかく、指標とする緑被面積に加えてもよいのではないか。築堤護岸で緑地を有する河川は地域の原風景に与えるインパクトも大きい。そういったことを総合的に考えて周辺部も含めた河川や緑地との関係を整理すれば、国が目標とする30%の見え方も変わってくるのではないか。

会長

芦田川以外の河川についても、市街化区域の範囲内になると思うが、計画に反映し

ていただきたい。

委員

アンケートで「福山市全体」のみどりについて聞いているが、回答者が想像しきれないのではないか。「お住まいの地域」のところで、それぞれの地域の実態に即して適切に評価していくことが望ましいと感じた。みどりに水面を含めるかどうか、国が示す30%を達成できるかどうかは都市の特性によって変わってくると思う。いずれにしても福山市の最大のポテンシャルに合わせて目標を設定することが望ましい。街路樹のように管理上の観点で減らしていかなければならない場所がある一方、増やせる場所で増やしていく必要がある。

一方、具体的にどこに増やしていくべきなのかといったことも考えておく必要がある。近年の温暖化の影響により暑さは他人ごとではなくなっている。社会環境の変化で言えば、福山駅前も変わろうとしている。こうした状況を踏まえ、そもそもどこに新しくみどりを創出していくべきなのかという視点も必要だと思う。コストが掛かるのはやむを得ないので、やる以上はコストパフォーマンスが高い場所を選んで優先的に取り組む。みどりの機能を実際に発揮していく上では、パフォーマンス側の話視野に入れて戦略的に取り組むことが重要なのではないかと思う。

会長

アンケートについては、この後、説明があると思う。その後のみどりを増やす点やコストパフォーマンスについては、整理して計画に反映してほしい。

委員

方針5の「みどりは、災害に強く、快適で安心して暮らせるまち」という表現の具体的なイメージを教えてほしい。

事務局

大雨の際の保水性の高さといった、災害に強いまちを支えるイメージである。

会長

その他意見等はないか。（意見なし）

（市民アンケート（案）について）

委員

アンケートはどういった形でどれくらいの人に対して行われるのか。

事務局

質問項目が多いことから、紙媒体で4,000部を配布し、11月中に実施する予定。
市内の18歳以上の市民を対象に、年代やエリアを振り分ける形で配布する。

委員

年齢の項目で60歳以上が全てまとめられているのを細分化すべき。質問項目で3段階評価と5段階評価が混在している。ばら関連の質問で、「参加したことがある」だけでなく、「今まさに参加している」という選択肢も設けるべきではないか。

事務局

回答の選択肢については少し迷っている部分がある。選択肢が少ないほうが回答者にとって負担が少ないのではないかということで案を提示した。ご意見を踏まえて、再度見直したい。特にばら関連では「今まさに参加している」という現状を把握できる選択肢を設けるか再検討する。

委員

回答を何に使いたいかによって変わってくると思うので、使えるデータが取れるようにすること。

委員

アンケートはインターネットで行わないのか。ネットを活用すればアピールしやすく、回答する人も多いと思う。

事務局

インターネット活用も有効だが、本アンケートは無記名を想定しており、特定の回答者が重複する可能性を考慮し、現時点では回収率を高めるため紙媒体の配布で対応したい。

会長

回収率を高める工夫をしてほしい。その他意見等はないか。(意見なし)

以上